

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
作品分析 I 1-C-2-08	近松 博郎	必修	2	30時間	1	1

**【授業の概要】**

西洋音楽の演奏家にとって和声法の知識と素養は不可欠といえる。ウォルター・ピストンとマーク・デヴオートによる『和声法 分析と実習』(角倉一朗訳、音楽之友社、2006 年)は豊富な曲例によって学習者に和声法と様々な音楽理論を総合的に体得させることを意図した古典的名著である。本授業ではこの教材を用いてバロックから現代までの多種多様な作品を対象とした実践的和声分析の方法論を学ぶ。

**【到達目標】**

和声法と各種の音楽理論をおさらいし、これまで学んできた知識を整理する。それと並行して、各種の和声進行が実際の音楽作品の中でどのように現れているかを確認し、最終的に独力でそれらを作品中に見出し、分析できるようになる。

**【授業計画】**

第 1 回	[4/27 (月) 09:20~11:00]
授業:	導入—作品分析の目的と意義について
事前学習:	沼野雄司『ファンダメンタルな楽曲分析入門』(音楽之友社、2017 年)の「はじめに」を読んで、それについての意見を自分の言葉で説明できるようにしておく。
事後学習:	任意の西洋音楽作品を一つ選び、その音楽の概要と特に優れていると思われる点について次回授業で説明できるようにしておく。
第 2 回	[5/18 (月) 09:20~11:00]
授業:	基本事項、3 和音、長旋法
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 3 回	[5/25 (月) 09:20~11:00]
授業:	短旋法、調性と旋法性
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 4 回	[6/15 (月) 09:20~11:00]
授業:	第 1 転回形と数字つき低音、旋律の機能と構造
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 5 回	[6/29 (月) 09:20~11:00]
授業:	非和声音
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 6 回	[7/6 (月) 09:20~11:00]
授業:	旋律の和声づけ、4-6 の和音
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 7 回	[9/14 (月) 09:20~11:00]
授業:	終止定型、和声リズム
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。

事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 8 回	[9/28 (月) 09:20~11:00]
授業:	フレーズの和声構造、転調
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 9 回	[10/5 (月) 09:20~11:00]
授業:	属 7 の和音、2 次ドミナント
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 10 回	[10/19 (月) 09:20~11:00]
授業:	変則的な解決、音楽のテクスチャー
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 11 回	[10/26 (月) 09:20~11:00]
授業:	和声分析の諸問題、ゼクエンツ
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 12 回	[11/9 (月) 09:20~11:00]
授業:	減 7 の和音、長 9 和音
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 13 回	[11/30 (月) 09:20~11:00]
授業:	7、9、11、13 の和音、上方変位の II と V
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 14 回	[12/7 (月) 09:20~11:00]
授業:	ナポリ 6 の和音、増 6 の諸和音、他の半音階的和音
事前学習:	前回の配布プリントに目を通しておく。
事後学習:	授業内で扱った作品を一つ選び、特に優れていると思われる点について説明できるようにする。
第 15 回	[1/18 (月) 09:20~11:00]
授業:	授業の総括。これまでの学習内容に関する試験の実施。
事前学習:	これまでの授業内容をよく確認しておく。
事後学習:	試験後に送付する模範解答・解説を見て、できなかった部分を復習する。

**【履修資格／履修に必要な予備知識や技能】**

1 年次生。再履修：可。

**【授業の形式】**

講義(一部に演習を含む)

**【成績評価の要点】**

試験(第 15 回授業で実施する筆記試験):40% 提出課題・作品発表等(レポート):30% 受講姿勢(出席や発言など、授業への積極的な参加):30%  
成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

**【課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法】**

事後学習へのフィードバックは次回授業で行う。第 6 回授業で課すレポートへのフィードバックは第 7 回授業で行い、最終回の筆記試験へのフィードバック(模範解答・解説)はメールにて送付する。

**【事前・事後学習、必要時間】**

1 コマにつき、合計約 180 分の事前・事後学習を必要とする。

**【教材】**

沼野雄司『ファンダメンタルな楽曲分析入門』音楽之友社、2017 年。未入手の者は購入すること。  
その他の教材・資料はそのつど授業内で配布する。

**【授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合】**

オフィス・アワーで受け付けるほか、授業の前後 10 分間にも質問可。簡単な内容であればメールによる問い合わせにも対応する。